

## 『ぼくと剣道』

愛媛県

愛媛建武館

小学6年 曾我部昭太

ぼくが剣道を始めたのは、一年生でした。祖父が昔、剣道をしていて家に遊びに行くとよく剣道の話をしてくれていて、興味はもっていたけど、ぼくにはもう一つ剣道を始めた大きな理由がありました。それは、保育園の時にはたくさん友達がいたけど、その友達が通う小学校ではなくて、みんなと家をはなれていた関係でぼくは地元の小学校に通うことになりました。だから、入学した時、ぼくには一人も友達がいませんでした。はずかしがりやで、地味なぼくはしばらくしても友達ができず、逆にからかわれたりして、担任の先生と二人で別の教室で給食を食べたことが何度かありました。

そんな時、保育園の時の友達が剣道をしていることを聞き、祖父や母のやさしいすすめもあって剣道を始めることになったのです。最初は、稽古というより友達に会えることがうれしくて、道場に行っている時間は、学校では味わうことができない時間となりました。そしてそのうち自分にも少し変化がでてきました。今のままだと学校では友達なんかできない、もっと積極的になってみよう。学校の授業のスピーチなどで剣道をしていることをみんなの前で発表すると、もともとぼくが通っている学校では剣道をしている人がほとんどいなかったの、興味を持ってくれてどんどん話しかけられるようになり、友達も増え、ぼくにも自信というものがめばえてきました。剣道をやっていて良かったと思いました。そして道場では楽しいだけでなく厳しいと思うこともあったけど、勝ちたいという思いがどんどんふくらんでいきました。チームの人は仲間でもあり、ライバルでもあります。みんなと稽古をし、成長して試合で勝った時は、みんな喜びあい、負けてしまうこともあったけど、だれ一人ぼくを責めたりはしないととてもいい仲間です。だからこそ、ぼくは今まで剣道が続けられたと思うし、やめたいと思ったことは一度もありません。そしてもう一つ、時には厳しく時にはやさしい先生に出会えたことです。ぼくの父は、長きより運転手をしているので、毎日いそがしく、ふだん家に居ることが多くないので、道場に行けば、ぼくのことを本気でしかってくれたり、剣道以外のことを教えてくれるたくさんのお父さんがいるから、さみしいと思ったことは一度もありません。

そしてぼくは六年生になりました。そんなぼくを見てか、二つ下の弟も入門し、一しょに稽古にはげんでいます。ぼくの夢の一つでもあった日本武道館で行なわれた全国大会にも出場することができ、そのことが弟のこれからの夢にもなりました。ぼくは、体も小さくて、今だに泣き虫だけど、自分なりに努力はしてきたつもりです。努力をすれば夢はかなうということを弟や下の後輩達に教えてあげることができ、そのことがこれからのぼくにとって大きな自信となることと思います。

小学校卒業まで後半年。一つ一つの試合が小学校での最後の試合だと思ふときびしくもあるけど、まだまだ自分がやり残したこと、やるべきことがたくさんあります。試合の結果はもちろん大事だけど、一日一日の稽古をぼくは大事にしていきたいです。中学校では部活があるので今の道場の友達と、一緒に稽古をする回数は減るけど、自分を変え、成長させてくれた剣道、そして先生や自分を支えてくれている人達に感謝し、これからも剣道を続け、そして将来、指導者となってこの道場に胸を張って帰って来て、子供達と一緒に剣道をするのがぼくの夢です。

そして最後にぼくの道場、愛媛建武館の道場訓は、『厳しい稽古、楽しい剣道』です。厳しい練習や礼儀作法を続けて行き、これを身につければ必ず良いことがやってくる、りっぱな人間に成長するという教えです。ぼくは出来ると信じて道場訓を常に胸にいだき、ぼくの夢に向かって剣道と共に歩み、これからもがんばっていきたいと思います。